

| | | | |
|--------------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数) | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (C/N) (2 単位) | 3. 科目番号 | SCMP3481 |
| 2. 授業担当教員 | 中里 哲也・大門 俊樹 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、個別学習、グループ学習 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | | |
| 7. 講義概要 | <p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開されるよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p> | | |
| 8. 学習目標 | <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2) ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3) ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | <p>課題1: 社会福祉士受験資格取得のための相談援助実習において、実習内容に含まれるべき事項をレポートにまとめる。</p> <p>課題2: 配属された実習施設・機関に関する適切な理解のもと、実習の目標と抱負を文書にまとめる。</p> | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2. ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3. ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 30% 2. 課題2 30% <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p> | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 | 事前学習 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。 |
| 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (1) (テキスト pp.104~122) : 事前学習として各分野における実習の在り方について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第2部第7章を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第3回 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (2) (テキスト pp.104~122) : 第2回に引き続き、第2部第7章に示す、実習先理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第2部第7章を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |

| | | | |
|------|--|------|---|
| 第4回 | ・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(1)(テキスト pp.124~140) : 施設、機関、また地域の社会福祉サービス利用者についての理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第2部第8章を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第5回 | ・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法(2)(テキスト pp.124~140) : 第4回に引き続き、第2部第8章に示す、社会福祉サービス利用者の理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第2部第8章を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第6回 | ・相談援助実習の仕組み(テキスト pp.142~158) : 相談援助実習の構成と求められる内容について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第2部第9章を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第7回 | ・実習経験と学習「基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成」(テキスト p.166~173) : サービス利用者とのコミュニケーションの方法と信頼関係の形成について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第2節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第8回 | ・実習経験と学習「利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成」(テキスト p.174~181) : ニーズの把握から支援のための計画作成までの方法について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第3節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第9回 | ・実習経験と学習「利用者やその関係者との援助関係の形成」(テキスト p.182~190) : 利用者支援に必要となる関係者との関わり方とその必要性について理解を深める。 ・実習経験と学習「利用者やその関係者への権利擁護及び支援」(テキスト p.191~195) : 利用者及び関係者に対する権利擁護とはどのようなものなのか理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第4節及び第5節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第10回 | ・実習経験と学習「チームアプローチの実際」(テキスト p.196~202) : ソーシャルワーク実践におけるチームアプローチの意義と方法について理解を深める。 ・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト p.203~208) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第6節及び第7節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。 |
| 第11回 | ・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト p.209~215) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。 ・実習経験と学習「地域社会の一員としての実習機関・施設の理解」(テキスト p.216~223) : 社会福祉機関・施設の社会化について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第8節及び第9節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 課題1の作成 |
| 第12回 | ・実習先の配属発表 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集を行う ・実習個人調書の作成方法について理解を深める。 | 事前学習 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。 |
| | | 事後学習 | 配属施設・機関に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。 |
| 第13回 | ・実習配属施設・機関に関する理解を深める ・実習個人調書の作成(ソーシャルワーク実習に対する動機と抱負について言語化する)。(課題2の作成) | 事前学習 | ソーシャルワーク実習に対する動機と抱負について自分なりにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 実習個人調書をまとめて、担当教員からの添削を受ける。 |
| 第14回 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の目標理解(『ソーシャルワーク実習の手引き』使用) : これまで学習してきたことと、本学の実習目標との相互関係を確認し、実習プログラム(案)の作成方法について理解を深める。 | 事前学習 | 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』を熟読し、実習目標について理解を深める。 |
| | | 事後学習 | 実習目標に沿った実習プログラム(案)についてまとめる。 |
| 第15回 | ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題 | 事前学習 | ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。 |
| | | 事後学習 | ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。 |

【実習コンピテンスの流れ】

| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
|------|--|------|---|
| 第11回 | ・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト p.203) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。 | 事前学習 | テキスト第3部第10章第8節及び第9節を熟読し、要点をノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 課題1の作成 |
| | | 配布物 | 実習コンピテンシ問題パートⅡ |
| 第12回 | ・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト p.209~215) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。 | 事前学習 | 東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。 |
| | | 事後学習 | 実習コンピテンシ問題パートⅡ テスト |
| | | 配布物 | 実習コンピテンシ問題パートⅡ及び解答用紙 |